

# 令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	阪南 市議会
報告者	議長 畑中 謙 副議長 山本 守 事務局長 井上 稔
視察日時	令和元年7月25日(木) 13:30~15:30
視察先	茨城県 常総市

## 概要

平成27年9月関東・東北豪雨災害について  
 平成27年9月に発生した関東・東北地方を襲った豪雨は、甚大な被害をもたらしたが、常総市においても、死亡14人、重症者3人、家屋等の被害は、全壊53件、規模半壊1,591件、半壊3,519件など激甚な被害があった。本視察では、被災時の庁内体制、特に議会の対応やその問題点、また教訓を踏まえた課題克服をはじめ、災害に備えた庁内外の体制づくり、今後の安全・安心なまちづくりを実現するための水害対策検証委員会の設置やそこでの「検証報告書」の作成、またその結果を踏まえた地域防災計画の見直し、国・県・市など関係機関が連携した避難勧告・指示等を発令するタイムラインの策定や、各世帯が家族構成や生活環境にあった防災行動を整理することにより災害時に備える「マイ・タイムライン」の普及、地域住民への防災教育・訓練、自主防災組織の取組み等について、被災後の体制整備のひとつとして新たに招聘された自衛隊OBの危機管理監からご自身の体験も踏まえた非常に実践的な説明をいただいた。



所 見

平成27年9月関東・東北豪雨災害について

昨年9月の台風21号では本市においても玄関口である南海電鉄尾崎駅が橋上改札部分が焼失するなど大規模な被害に見舞われたが、対応するのは市職員、消防職員、消防団員、議員といった「人」であり、体制整備・人材育成の重要性を改めて痛感した。本市においても消防職員OBを危機管理部門に配置していることは今後の被災時の対応としても有効に機能するものと思慮する。

また、人材育成面においても天気図の読み方やデータを活用した今後の予報について、危機管理監が指導され、既に後進の職員が育成されているとお聴きし、天気図の読み方だけではなく、実地訓練を通じて世代間の経験の差を埋め組織としてスキルアップすることが、今後の大規模災害時の対応においては大きく影響するものとする。

さらに、新たな取組みとして、市の災害対策タイムラインだけではなく、住民にも「マイ・タイムライン」を普及させることで市民一人ひとりが災害時に慌てることなく対応できる仕組みづくりをされていることは、本市ではまだ未着手な取組みであり非常に参考になった。また、常総市ではアナログでの「マイ・タイムライン」であるが、東京都ではそのノウハウを活用しスマートフォンのアプリなどで作成できる仕組みづくりをされているとご教授いただき財政的な制約はあるが貴重な助言であった。

一方、地域においても「共助」という観点からも自主防災組織の設置は重要であり、常総市では現在設置率が52%ということで説明のなかでは豪雨災害時に災害の少なかった地域にあっては危機意識がまだまだ低く新たな結成に至っていないということであった。本市においても令和元年8月現在26団体で設置率が70%に留まっており、未設置地域においても祭礼などにより比較的地域コミュニティが確立されているという背景はあるものの、平時の地域住民を交えた訓練の必要性などを考えると可能な限り早期に全市域において自主防災組織を設置する必要があるものとする。

また、近年の技術の進歩により災害時の状況把握にドローンを活用されているとお聴きし、全体の説明終了後にドローンの購入・運用コストなどについてもお訊きしたが、民間事業者との連携など多様な方策があるので地域の実情を踏まえ今後研究の必要があると思慮した。

# 令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	阪南 市議会																																			
報告者	議長 畑中 譲 副議長 山本 守 事務局長 井上 稔																																			
視察日時	令和元年7月26日(金) 9:30~11:30																																			
視察先	千葉県 松戸市																																			
概要	<p>子育て支援事業について</p> <p>人口減少社会を迎え、少子高齢化への対応が多くの市町村で課題になっているなか、松戸市は、「やさシティ・まつど。」をスローガンに掲げ、子育てしやすいまちづくりを推進され、現実人口増を実現されており、年少人口の減少率も全国平均と比較すれば非常に低くなっている。その背景として、「家庭、地域、事業者、行政が協力し、社会全体で子どもの成長を支えていくことが大切である」という市長の考えの下、①待機児童の解消を目的とした幼稚園の預かり保育の積極的な促進 ②保育士確保に向けた松戸手当の導入 ③公立保育での英語あそびの導入など、幼児教育の充実 ④虐待支援強化として全国初「子ども家庭総合支援拠点」の設置など具体的な子育て支援策が講じられているとともに、三世代近居・同居を推進するための経済的な支援策の実施など総合的に共働き子育てしやすいまちの推進に取り組まれている。本視察では、子育て政策の総合的な取り組みから、妊娠・出産直後からの子育てまでの切れ目のない支援、市内全23駅の駅前・駅ナカへの小規模保育施設の設置や市の子育て支援策の総合的な窓口ともなる「利用支援コンシェルジュ」の配置など保育環境の整備、保育士の確保策、子育ての情報発信など多分野にわたり各担当の方より説明をいただいた。</p>																																			
	<p>参考資料:人口推移(国勢調査値)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1990</th> <th>1995</th> <th>2000</th> <th>2005</th> <th>2010</th> <th>2015</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松戸市総人口(人)</td> <td>456,210</td> <td>461,503</td> <td>464,841</td> <td>472,579</td> <td>484,457</td> <td>483,480</td> </tr> <tr> <td>阪南市総人口(人)</td> <td>54,073</td> <td>55,625</td> <td>58,193</td> <td>57,616</td> <td>56,646</td> <td>54,276</td> </tr> <tr> <td>松戸市年少人口(人)</td> <td>84,349</td> <td>70,728</td> <td>65,546</td> <td>64,406</td> <td>58,921</td> <td>56,055</td> </tr> <tr> <td>阪南市年少人口(人)</td> <td>11,247</td> <td>9,584</td> <td>9,400</td> <td>8,787</td> <td>8,079</td> <td>6,847</td> </tr> </tbody> </table>		1990	1995	2000	2005	2010	2015	松戸市総人口(人)	456,210	461,503	464,841	472,579	484,457	483,480	阪南市総人口(人)	54,073	55,625	58,193	57,616	56,646	54,276	松戸市年少人口(人)	84,349	70,728	65,546	64,406	58,921	56,055	阪南市年少人口(人)	11,247	9,584	9,400	8,787	8,079	6,847
	1990	1995	2000	2005	2010	2015																														
松戸市総人口(人)	456,210	461,503	464,841	472,579	484,457	483,480																														
阪南市総人口(人)	54,073	55,625	58,193	57,616	56,646	54,276																														
松戸市年少人口(人)	84,349	70,728	65,546	64,406	58,921	56,055																														
阪南市年少人口(人)	11,247	9,584	9,400	8,787	8,079	6,847																														

所 見

子育て支援事業について

前頁表のとおり松戸市と本市の人口推移を比較すると一目瞭然であるが、規模の違いはあるが、高度経済成長期に同様に住宅都市として人口急増してきた両市であるが、国全体が人口減少社会を迎えた今日、如何に生産人口、特に子育て世代の転入を促進するかが、人口問題の克服への最も効果的な政策であることを改めて痛感した。

松戸市と本市では財政力に大きな乖離があり（平成29年度決算値で松戸市0.90、阪南市0.55）、一概に本市が松戸市の政策を取り込むことは困難であるが、本年10月から幼稚教育の無償化が予定されている今日、どの施策で子育て世代が居住地を選択するかということを考えると松戸市が取り組まれている子育て支援への圧倒的な熱量というのは大阪の衛星都市にはないものであり参考になった。

本市の子育て世代の両親の就業地は松戸市ほど都心にはないが、新たな子育て世代の転入の促進を考えると、市内全駅の駅ナカ、または駅近隣への小規模保育施設の整備は必要不可欠であると考え（本市では全5駅中1駅で有）。

また、本市でも保育士確保や若年層の保育士の定着が課題となっているが、松戸市の奨学金制度（市内の保育施設で一定年数勤務することにより返済免除）は、全額一般財源という財政的な課題はあるものの保育士確保策だけではなく、若年層の就労支援策や新たな若年層の転入策としても非常に有効であると考え。

さらに、子育て世代の転入を図るだけに留まらず、三世代の同居・近居を促進することで、子育てをする親の不安解消の一助につながるとともに、世代間交流により高齢者の生きがいづくりや認知症対策等にも効果が期待され、好循環ができる施策であると思慮する。

本視察ではおうかがいすることはできなかったが、平成29年度決算で0.90という財政力から、子育て施策と併せて経済産業の促進策も推進されていると推察されるが、富の再配分が基礎自治体の運営として最も難しい命題であると考え、流山市など周辺自治体との自治体間競争もあるかと考えるが、ここまで徹底して子育て施策に注力することで人口問題を克服できるという全国的なモデルであると再認識できた。

# 令和元年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	阪南 市議会
報告者	議長 畑中 譲 副議長 山本 守 事務局長 井上 稔
視察日時	令和元年7月26日(金) 13:30~15:00
視察先	東京臨海広域防災公園
概要	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <p>国の基幹的広域防災拠点として整備された国と都立公園からなる13.2haの広域防災公園で、その中に防災体験学習施設である「そなエリア東京」が設置されている。</p> <p>国の基幹的広域防災拠点とは、都道府県単独では対応できない広域あるいは甚大な被害に対し、国及び地方公共団体が協力して応急復旧活動を行うための施設であり、東京臨海広域防災公園は、国等の災害対策本部の設置をはじめ、自衛隊、消防、警察などの広域支援部隊等のベースキャンプの設置・災害時医療の支援などを行う首都圏広域防災のヘッドクォーターとしての機能を有している。今回は、施設管理者である内閣府・国土交通省の担当者から施設機能の説明をいただくとともに、災害時に実際に関係機関の職員が配備され対応されるエリアなどを視察した。</p> <p>また、併設されている「そなエリア東京」は、体験と学習を通じて災害をイメージする力と災害への対応力を身につけることができる施設で、体験ツアー「東京直下72h TOUR」で首都直下型地震の発生から避難までの一連の流れを実際に体験するとともに、防災ギャラリーなどを通じて日常生活のなかでの災害に対する備えについて学んだ。</p>
	

所 見	<p>(施設見学) そなエリア東京</p> <p>災害が発生した場合、一時的には基礎自治体である市町村における災害対策本部において対応することとなるが、災害の状況に応じ国・府をはじめとした関係機関との連携が不可欠である。</p> <p>昨年発生した台風21号による被災のように電気という市民生活に欠かすことのできないライフラインが寸断され、箇所によっては復旧までに数日を要したケースもあった。昨年の災害でも多くの市民の要請を関係機関につなぎ復旧させるまで、かなりの労力を要したが、想定される南海トラフ巨大地震により被災するなど大規模災害に被災したとき、国がどのように各省庁横断的に対策態勢を整備されるか実地に学び、管理されている内閣府、国土交通省の担当者から説明を受けることで、国としてのバックアップ態勢については十分準備され、迅速かつ計画的に初動態勢が整備されていることについては理解できた。</p> <p>また、「そなエリア東京」では、首都直下型地震の発生から避難までの流れを疑似体験したが、実際の被災時には恐らく多くの市民の混乱を目の当たりにした対応に迫られ、いかに冷静に的確な判断ができるかが減災、縮災の大きな鍵であると考え。ただ、児童・生徒をはじめとした市民にこうした施設で防災学習をしていただくことは、被災時の対応には非常に効果があるものと考え。また、防災ギャラリーで展示されている防災グッズは、市販品だけではなく、新聞紙などから自ら製作するようなものまであり、こうした備えを市民に周知することも必要ではないかと考えさせられた。</p> <p>大阪圏における基幹的広域防災拠点は堺泉北港堺2区に設置されており、地理的には本市からも比較的近距離ではあるが、被災時においては府との連携も必要であるが、国との連携を強化しより一層緊密にする必要があると思慮した。</p>
-----	---